

高齢者にも多いてんかん

認知症と紛らわしく

あまり知られていないのが、高齢者のてんかん発症率の高さだ。高齢者の発作には、けいれんがなく、意識障害が多い。このため認知症と紛らわしく、誤診されるケースもあるという。抗てんかん薬を使えば改善が見込めるだけに、周囲の人が見過ごさないよう気を付けたい。

(山口和也)



多田恵曜講師

てんかんの発症率は10歳未満の子どもが高く、成人になるにつれて低下する。一方で、65歳以上の高齢者にも多いことを知ってほしい」と話す。

高齢者がてんかんになる主な原因は、脳血管障害だ。アルツハイマー病や頭部外傷、脳腫瘍、脳の感染症なども要因になる。原因がはっきりと分らないケースも少なくない。

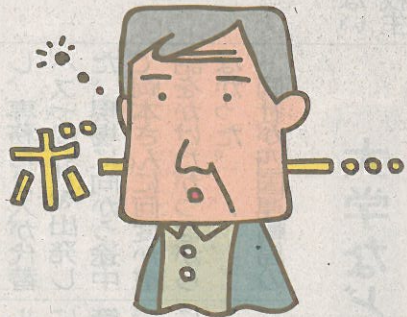
徳島大学病院脳神経外科の多田恵曜講師は「てんか

てんかん 電気の流れによって働く脳の神経細胞が異常を来し、電気の流れに乱れが生じる病気。100人に1人の割合でいるとされる。運転免

許の取得や更新時に申告の義務付けられているものの、多くの患者は薬で発作を抑えられ、適切な治療を受けていけば運転に支障はない。

けいれんなく突然 意識障害

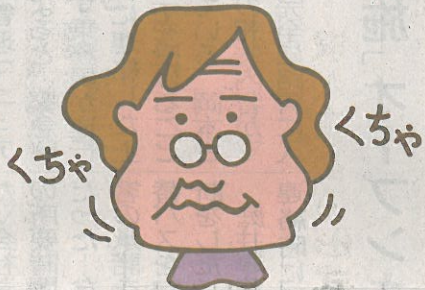
高齢者の主なてんかんの症状



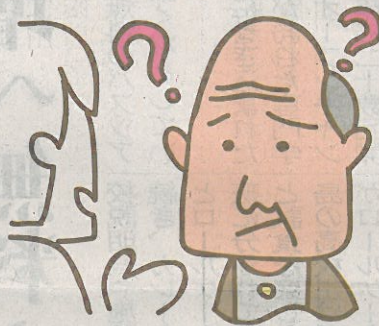
①一点を見つめてボーッとする



②問いかけに反応しない、的外れな答えをする



③口をくちやくちやせたり、手で服をまさぐったりする



④過去の体験や出来事を忘れる

イラスト・榎原 忍

的外れな返答をしたりする。この間、本人は意識を失っており、入浴や車を運転しているときは、特に危険だ。

発作が出た際の記憶がすっぽりと抜け落ちているため、自分では気づきにくい。「テレビを見ていたのに記憶が途切れ、いつの間にか場面が進んでいた」といった場合、意識障害が起きていた可能性がある。けいれんのような目立った発作が起きないことか

「適切な診断と薬物治療を」

ら、家族も発見が難しい。また、認知症と診断されたのに、実はてんかんだったというケースもある。多田講師は「高齢者のてんかん患者は、実際はもっと多いかもしれない」と指摘する。

診断には、問診やMRI(磁気共鳴画像装置)検査のほか、脳波測定を行う。通常の脳波測定では異常が見つからないケースもあり、より正確な診断をするために5〜7日かけて脳波を記録する「ビデオ脳波モニタリング」を用いることもある。

家族の協力も欠かせない。スマートフォンの動画機能などを使って、発作が起きた際の様子を録画していると診断に役立つ。

徐々に進行していく認知症に対し、てんかんの発作は、状態の良いときと悪いときの差が大きい。高齢者のてんかんは、抗てんかん薬によって発作を抑えられる可能性が高く、多田講師は「適切な診断と薬物治療を受ければ、症状は消失できる」と話している。